



ウィーン 派遣高校生大募集!

2017年夏休み、
日本を飛び出して
新しい発見を
しませんか!?



荒川区はウィーン市ドナウシュタット区と
平成8年から海外友好都市交流を続けており、
昨年20周年を迎えました。

荒川区の親善大使としてホームステイを通じ、
ウィーンの高校生と互いの文化を学び合い、
国際的な視野を広げましょう!

荒川区国際交流協会はチャレンジする高校生を応援します!



派遣先

オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区

派遣日程

平成29年7月21日(金) ~ 8月1日(火)
10泊12日間(予定)

活動内容

ウィーン市およびその近郊の施設見学・学習、ホームステイ、
帰国後の報告書作成、派遣報告

参加費用

約16万円

(予定経費【渡航費、宿泊費、食費等】の約1/2相当)
お支払方法は一括払いのみとなります。

対象

荒川区内在住の高校生 6人(書類と面接で選考)

応募方法

応募書類(詳細は裏面)を協会事務局に持参または郵送
平成29年5月9日(火)(必着)

申込み・問合せ

荒川区国際交流協会事務局
〒116-8501 荒川2-2-3 荒川区役所文化交流推進課内
(区役所 3階 1番窓口)

電話 3802-3798 Fax 3802-4769

ウィーン市ドナウシュタット区 2017年度 派遣高校生 募集要項



応募条件

- 申し込み時から派遣時を通じて区内に在住していること。
- ウィーンからの派遣生（男女問わず）のホームステイを受け入れること。（8月中旬～下旬）
- 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣終了後も荒川区国際交流協会のボランティア会員として事業に協力できること。
- 健康で、海外生活やホームステイ、団体行動、交流事業に対応できること。
- 日本の生活や文化、荒川区について積極的に紹介できること。
- 保護者の同意が得られること。
- 英検3級程度以上の英会話力があること（公用語はドイツ語）。
- 事前研修会および事後報告会にすべて参加できること。
- 研修終了後も荒川区国際交流協会の事業にボランティアとして協力できること。



応募書類

- 参加申込書一式（区役所・区内図書館・区民事務所で配布）
- 作文「ウィーン高校生派遣に応募した理由」（原稿用紙3枚、1000～1200字程度、手書き）
 - 作文には、次の項目を必ず記述してください。（1）ウィーンに関して興味があるテーマ、（2）テーマに関してウィーンへ行ったらやりたいこと、（3）国際交流でやりたいこと。



選考日程

- 5月9日（火） 応募書類受付締め切り
- 5月11日（木） 書類審査結果と選考面接時間通知
- 5月13日（土） 荒川区役所にて面接審査
- 5月15日（月） 審査結果通知

派遣決定後に、健康上の理由または派遣に不都合な理由が生じた場合、派遣の資格を取り消すものとします。派遣資格が取り消された場合、または派遣者の都合により取りやめた場合、それまでに要した経費および取消に係る経費は応募者の負担となります。



説明会・研修

- 内定者説明会 5月下旬～6月上旬（荒川区役所）
 - 説明会には保護者の方も同席してください。
- 事前研修会 6月上旬～7月上旬 計3回程度
（内容：ドイツ語研修、異文化コミュニケーション、OB・OGとの交流）
- 受入説明会 8月上旬（荒川区役所）
- 事後報告会 8月上旬～ 計3回程度（派遣報告集を作成）
 - 事後報告には3月初旬開催予定の荒川区国際交流協会主催の「外国人のための日本語スピーチコンテスト」の運営補助を含みます。

～2016年度派遣生の声～

Q. 英語は大丈夫だった？



A. Mさん 初日は会話もたどたどしく10日間が心配になるほどでしたが、たとえ正しい文法で完璧な言葉は話せなくても、相手に自分の思いを伝えようとする意思を持つ事で会話はできる事に気がきました。家族との交流もだんだんと上手くなっていくのがとても嬉しかったです。

Q. ウィーンで学んだことは？



A. Fさん シェーンブルン宮殿やベルヴェデーレ宮殿の見学はオーストリアの歴史を物語っていて、教科書に載っていた絵画も多く展示されていたので、見ていて楽しかったです。オーストリアの歴史に興味を持つことができました。

Q. ウィーンのホテルファミリーの様子はどうだった？



A. Kさん 最初に家に着いた時は「ここはあなたの家だからね！」と伝えてくれて、帰る前には何度も「いつでも帰って来てね！」とみんなで言ってくれました。私が「行きたい！」と言った所も全部連れて行ってくれました。10日間という短い期間でしたが、本当によくしてもらいました。

Q. ウィーンの高校生を受け入れた時は？



A. Eさん 受け入れた10日間、文化のギャップをかなり考えさせられました。海外の人に日本をよりよく知ってもらうためにも、相手の文化を知ることが本当に大切だと感じました。また、いま注目されている新しい日本文化だけでなく、伝統文化にも興味を持ってもらえたら良いなと思いました。